

香川県保険医協会主催 医科歯科合同セミナーのご案内

顎関節治療の新たな知見

- ◆ 日時：2019年9月5日(木) 19:00～21:00
- ◆ 講師 広瀬 尚人先生(広島大学大学院医系科学研究科 歯科矯正学医長)
- ◆ 座長 三宅 実先生(香川大学医学部歯科口腔外科学講座教授)
- ◆ 会場： マリンパレスさぬき (高松市福岡町2-3-4) 駐車場有
- ◆ 参加費： 会員 無料 未入会員 8,000円 定員 40名



【略歴】

略歴

2006年3月 広島大学歯学部卒業
2011年3月 広島大学大学院歯学研究科修了 博士(歯学)
2013年11月 広島大学大学院医歯薬保健学研究科 歯科矯正学 助教
2018年4月 広島大学大学院医歯薬保健学研究科 歯科矯正学 外来医長
資格
日本矯正歯科学会認定医
日本矯正歯科学会指導医

【抄録】

顎関節症は現在国民の約2割が罹患するともいわれ、国民病と言っても過言ではない。その原因および病態は多岐にわたり、正しく分類診断し治療することが重要となる。しかし顎関節症を正しく理解し治療を実践している歯科医師はどれほどいるのであろうか。私は当科の教授とともに広島大学病院矯正歯科の顎関節外来を担当してきたが、根拠に乏しい顎関節症治療を受けている患者、不可逆的な治療を受けて病態が複雑化してしまっている患者を経験している。本講演では以上のような現状を踏まえて、3つのTopicsについてお話したいと思う。まず初めに日本顎関節学会の指針に沿って、多因子性疾患である顎関節症の捉え方について解説する。また検査から治療まで、患者にとって安心安全な治療ガイドラインを紹介する。2つ目に、我々矯正歯科医が矯正歯科治療を行う上で、顎関節症の存在は治療の難易度を著しく上昇させる。顎関節症を伴う患者に対する矯正歯科治療における注意点や初診時で見べきポイントを症例を供覧しながら説明する。3つ目に当科で行っている顎関節症に関する基礎研究を紹介する。顎関節症は特に日本において他の疾患と比較して基礎的研究が遅れているように思われる。全ての疾患は基礎研究の上に臨床検査や臨床的判断および経験が加わって治療体系が整備されていくものである。顎関節症ももう少し生化学的(biochemistry)に細胞生物学的(cell biology)に探究する必要があると考える。本講演におきまして、皆様と活発な意見交換を行い、明日からの顎関節治療に新しい知見が得られることを期待しております。

お申込みは香川県保険医協会へFax下さい 087-802-1336

医院名	ご氏名		
ご住所	Tel	fax	